

新型コロナウイルス時代とその後における持続可能な開発のための
2030アジェンダへのファイナンスに関するハイレベル会合
茂木外務大臣ステートメント（和文仮訳）

ジャスティン・トルドー・カナダ首相、
アンドリュー・ホルネス・ジャマイカ首相、
アントニオ・グテーレス国際連合事務総長、
皆様、

グローバル化が進む中、新型コロナウイルス感染症は、国際社会の脆弱性を浮き彫りにしました。新型コロナウイルス感染症は、まさに、人間の安全保障に対する危機です。日本は、人間の安全保障の考えの下、新型コロナウイルス発生以来、この危機を乗り越えるために国際社会と緊密に取り組んできました。

新型コロナウイルスに対処するため、我が国は15.4億ドルを超える対外支援を、本年2月からの数ヶ月間に、かつてないスピードで実施してきました。

ワクチンの開発及び供給は、新型コロナウイルスとのグローバルな闘いの潮目を変える上で、極めて重要です。途上国や人口の少ない国々によるワクチンへの公平なアクセスを確保することも、死活的に重要です。

国際社会がワクチンを「国際公共財」として扱わなければならないという考え方を基礎とし、我々はCEPI（感染症流行対策イノベーション連合）やGavi（ワクチンと予防接種のための世界同盟）といった国際的なパートナーと、ワクチンの開発及び供給のために協働しています。

経済の大幅な落ち込みからの回復を確実なものとするための施策も不可欠です。この観点から、我が国は今後2年間で（最大）45億ドルの緊急支援円借款を創設しました。円借款の供与は既に始まっています。我々は、G20やパリクラブにおける債務の持続可能性などの議論も主導しています。

ポストコロナ時代において、中・長期的には、公的資金の流れの透明性を高めるとともに、インパクト投資やESG投資を通じた民間資金動員を促進する必要があります。

今年はSDGs達成に向けた「行動の10年」の最初の年です。SDGsを象徴する「誰も取り残さない」という考えは、未来に向けて我々の社会をデザインする上での指針となるべきです。日本は、国際社会と共にSDGsを達成するため、取組を強化していきます。

ありがとうございました。

（了）